

1979年、世界サッカーの目は日本に向けられる。8月25日から9月7日までの14日間、神戸中央球技場など日本の5会場で開催される第2回ワールドユース選手権大会まで、8カ月あまりと迫った。

予選の方も順調に進み、開催国の日本を含む11カ国の本大会出場が決定。残る5カ国を決める予選の経過に、世界のファンは一喜一憂している。

サッカーファンへ 最高の贈り物

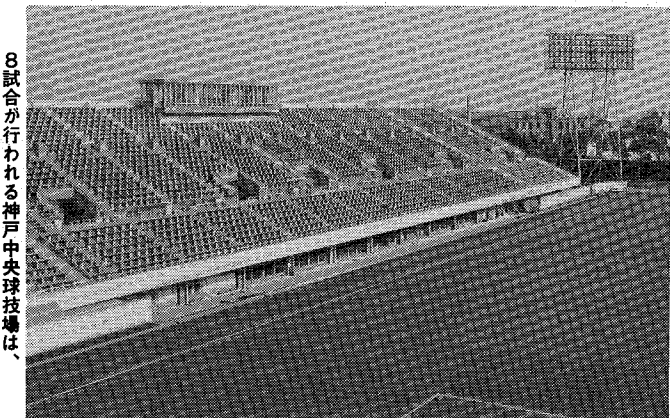
大会の出場資格は、1959年8月1日以降に生まれた者すなわち16歳から19歳の選手に限られている。日本では高校生年齢ということになり、子供っぽさが抜けきらない感があるが、外国のユースチームの選手は、その国の代表選手になってもおかしくない実力の持ち主ばかりだ。

第1回は2年前の1977年、アフリカのチュニジア（チュニス）で行われ、ソ連が延長の末PK戦でメキシコを破り、王者についた。その白熱の決勝戦をはじめ、数々の好試合の連続に大会は盛り上がり、高い技と力の水準はワールド

カップに次ぐすばらしいものだ、という評価を受けた。

近い将来、世界のサッカーをリードするスーパースターの可能性を秘めた若者が、真剣勝負を挑むわけだから、サッカーのだいご味をたんのうすることができ。今回のスペイン・ワールドカップでは、日本のユース大会でプレーした選手の中から、英雄が生まれることは間違いないだろう。

日本で開かれるサッカー単独の大会としては、史上最大の規模を誇るこのワールドユース選手権が神戸・兵庫のサッカーマンへの1979年最高の贈り物となろう。



8試合が行われる神戸中央球技場は、スタンドの改築などが予定されている

ワールドユース
選手権大会のマーク



サッカーは

第2回ワールドユース選手権大会

8～9月、神戸などで開催

サッカーほど世界中で広く親しまれているスポーツはほかにない。FIFA（国際サッカー連盟）は、さらに世界のすみずみまでサッカーを普及させること、特に世界の青少年とサッカーの発展途上国に役立つために、一連の活動を展開している。

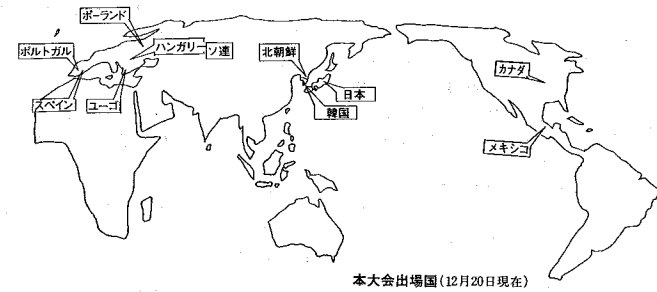
その一つとして、各種大会の開催があげられる。4年毎に行われるワールドカップ、その中間年のオリンピック、そして77年から始まった2年毎に開かれるワールドユース選手権大会によって、毎年いづれかの世界規模の大会が組まれることになった。アルゼンチン・ワールドカップに続いて今

年のワールドユース選手権、さらに来年のモスクワ・オリンピック、81年ワールドユース、82年スペイン・ワールドカップと、世界のファンを興奮させる感動のドラマが毎年行われる。

また地味ではあるが、FIFAの活動として、コーチングスクールが知られている。各国指導者の技術研修、スポーツ医学、組織運営などを主目的としたサッカーセミナーを、特にサッカーの発展途上国を中心に開いている。「サッカーは世界の言葉」と言われるが、FIFAの世界的活動によって、ヨーロッパ、南米などのサッカー先進国と対等に戦えるチームが現れる日も、そう遠くはないであろう。

ワールドユース選手権は、世界の人々の間にサッカーに対する人気を高め、青少年がサッカーを通じて健全に育ってほしいという願いから生まれた。第1回大会は83カ国が予選に参加し、1977年6月27日から7月10日までアフリカのチュニジアで開催された。第2回大会については「アジアで開催」の強い要望と、65、71年にアジアユース大会をりっぱに運営した実績が買われ、78年1月アルゼンチンで開かれたFIFAの理事会で、日本開催が正式に決定した。

101カ国が参加し、本大会の開かれる79年8月25日から9月7日



本大会出場国(12月20日現在)

リア、セネガル、トーゴ、チュニジア、ウガンダ
▶アジア 22(2)韓国(大韓民国)、北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)、アフガニスタン、パレーン、バングラデシュ、ブルネイ、ホンコン、インド、インドネシア、イラン、イスラエル、日本、ヨルダン、マレーシア、フィリピン、サウジアラビア、シンガポール、スリランカ、シリア、タイ、イエメン、パキスタン
▶コンカカフ(北中米、カリブ海) 19(2)アンチグア、バミューダ、カナダ、コスタリカ、ドミニカ、グアテマラ、グアタマ、ハイチ、ホンジュラス、ジャマイカ、メキシコ、ニカラグア、パナマ、プエルトリコ、エルサルバドル、スリナム、トリニダード・トバゴ、アンチル、アメリカ合衆国
▶南米 10(2)アルゼンチン、ブラジル、ボリビア、コロンビア、エクアドル、パ

ラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ベネズエラ、チリ
▶ヨーロッパ 27(6)ソ連、ポーランド、ハンガリー、ユーゴスラビア、スペイン、ポルトガル、チェコスロバキア、フランス、西ドイツ、ギリシャ、ベルギー、ブルガリア、キプロス、デンマーク、イングランド、フィンランド、北アイルランド、イタリア、マルタ、オランダ、ノルウェー、ルーマニア、スウェーデン、スイス、トルコ、ウェールズ
▶オセアニア 4(一)オーストラリア、ニュージーランド、台湾、フィジー、
▶開催国(1)日本
▶残りの1カ国は、南米3位、オセアニア1位の国およびイスラエルの3カ国の勝者
(注) 太字国は本大会出場が決定。大陸連盟名などの数字は参加登録国数。
() 内数字は本大会出場国数。

世界の精鋭が集う

101カ国が参加登録

ただいま 本大会出場11カ国が決定

日本で行われる本大会をめざして、78年の始めから世界各地で激しい予選が繰り広げられている。無条件の出場資格を持つ日本を含めて、参加登録は101カ国。内わけはアフリカ19、アジア22、コンカカフ(北中米、カリブ海)19、南米10、ヨーロッパ27、オセアニア4。

第1回大会の覇者ソ連は、ヨーロッパ予選で無敗の成績を収め、出場権を獲得した。予選5試合の総得点が15、総失点が0と、攻守のバランスがとれた強力チームだ。このほかヨーロッパ予選の決勝でソ連に敗れたユーゴスラビアやポーランド、ハンガリー、スペイン、ポルトガルも名のりをあげ、本大会へ向けて強化に励んでいる。

また、アジアの代表は韓国(大韓民国)と北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)。ワールドユース大会の予選を兼ねたアジアユース大会は10月5日から28日まで、バングラデシュのダッカで行われ、韓国

ワールドユース選手権参加登録国

▶アフリカ 19(2)アルジェリア、カメルーン、エジプト、エチオピア、ガンビア、ギニア、アイボリーコースト、ケニア、リビア、マダガスカル、マラウイ、マリ、モリシャス、モロッコ、ナイジェ

世界の言葉

の間に、代表16カ国が集まる。大会は4グループ4チームに分け、各グループの上位2カ国がベスト8へ進出。そのあと準々決勝、準決勝を経て、3位決定、決勝戦を争う。

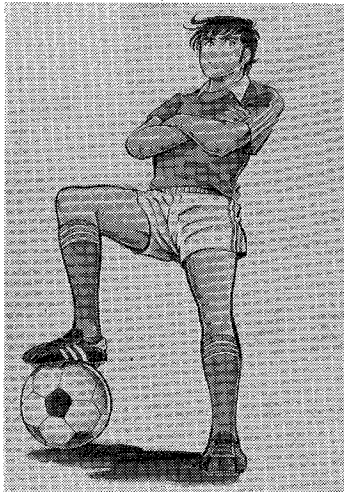
ワールドカップに次ぐ規模と技術水準をもつ大会を、日本で開催することの意義は大きい。次代をにう若い選手たちにとっては、絶好のレベルアップの機会となる。また、日本における一般のサッカーに対する関心と呼びおこし、サッカーが幅広く根をはる大きな契機になるものと期待されている。

準備も着々と進行

「できるだけ多くのファンに、世界のサッカーのすばらしさを味わってもらいたい」と、日本協会では組織委員会を中心に、万全な準備を進めている。組織委員会としてはこれまで、決勝の舞台となる東京・国立競技場、埼玉・大宮サッカー場、神戸中央球技場、広島県宮前競技場の4会場を正式に決定し、残る横浜・三ツ沢球技場も施設の条件が整えられる見通しがつけば、直ちに決める予定である。

各会場における試合数は国立＝7試合、大宮＝7、三ツ沢＝3、神戸＝8、広島＝7試合で、神戸が最も多い。試合は薄暮とナイターで行われ、同じ会場で2試合あるときは第1試合が午後5時、第2試合が午後7時から始まるが、1試合のみの場合は、すべて7時キックオフ。

いくつかの会場では、本大会の開催にそなえて改築、新設が計画されている。神戸中央球技場は電



光掲示板が新設されるほか、スタンドの座席も現在の木製から明るい感じのプラスチック製に、取り変えられる予定である。また、芝生を植え変えることも考えている。

組織委員会に続いて、経理など12の専門部からなる実行委員会も発足し、仕事を開始した。過去に例をみない規模と内容の大会だけに、準備も大変である。総務部が実行委員会の中心となり、この部を通じて各部の仕事が展開される。

また、試合が行われる5つの会場にも本部が設けられた。ここでも運営本部と同じように12の部に分けられ、神戸会場本部は兵庫県協会の理事長でもある高砂嘉之氏が本部長につき、他の担当者は次長＝中村寿男、総務＝中村寿男(兼)、西林恵三、河北顕数、経理＝松本雅祐、浅堀保彦、施設用具＝北保五郎、交通輸送＝中谷元紀、競技＝前本勇二郎、師田二郎、宿泊＝津川昌治、佃幹夫、渉外＝前野正、技術＝五島祐治郎、岡村敬、審判＝高橋敏雄、医事＝皆木吉泰、広報報道＝北四郎、警備＝蔵力(以上敬称略)で、各部の役員も近く決定されることになっている。

今後の日程としては、代表16カ国が出そろったあと、注目の組み合わせ抽選会が2月15日、東京で行われる。そして4月1日から前売り入場券が発売され、ワールドユース大会は本番を迎えることになる。

FIFA (国際サッカー連盟)

FÉDÉRATION INTERNATIONALE DE FOOTBALL ASSOCIATIONの略で、全世界のあらゆる地域でのサッカー技術向上の発展をめざして、援助活動を行っている。1904年フランスのパリに創立され、現在ではオリンピック委員会(IOC)の131をはるかにしのぐ146の加盟協会をもつ、世界最大のスポーツ団体である。本部は1927年以来、スイスのチューリッヒに置かれている。

本紙は次のところにもあります

関正スポーツ
東灘区住吉宮町4丁目6-13
☎078(821)8449
国鉄住吉駅南側西へ20m

灘スポーツ
灘区倉石通5丁目1-8
☎078(861)4671
市バス水道筋6丁目上がる100m東側

塩谷スポーツ
兵庫区大開通7丁目
☎078(576)0870
パンドウ化学南

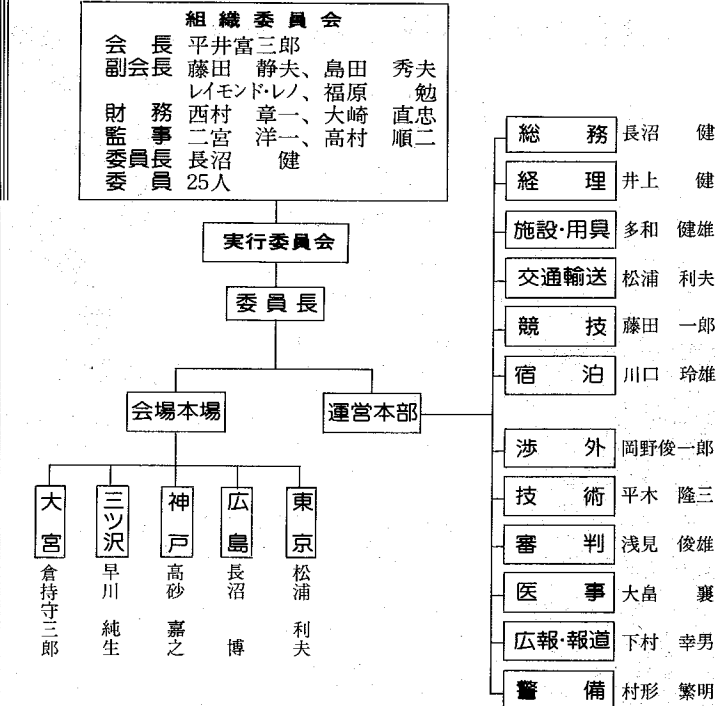
MEN'S SHOP MAC
三宮センター街店 ☎078(391)0895
プレザーショップ ☎078(391)0896
トーアロード店 ☎078(391)0896
神戸・新開地店 ☎078(575)7688

ワールドスポーツ
東灘区深江北町4丁目7-3
☎078(453)2186
阪神深江駅北側信号西

オウビ
井合区琴緒町4丁目7 ☎078(242)3667
国鉄三宮駅北側神戸理学院専門学校斜め前(旧上ビル1階)

スメラ
湊川店 湊川プラザ2階 ☎078(511)2234
鈴蘭台店 ダイエー西側 ☎078(592)0470

ワールドユース選手権大会運営組織



日本ユースチーム(写真提供 ベースボール・マガジン社)



秘策ねる日本チーム 急げ 個人能力の向上を

日本ユースチームは78年3月に編成され、松本育夫監督、花岡英光コーチの指導のもとで、延べ62日の海外遠征と110日以上にわたる強化合宿を行ってきた。

これまで84人の選手が候補にのぼり「個人の技術の種類を増やし、工夫すること」「常にボールが来る前に、次のプレーを考えておこう」をモットーに力をつけている。チーム結成以来、アジアユースでのタイトルをかけた激しいサッカー、攻守のはやさと柔軟性の豊かなヨーロッパ、南米のサッカーを経験し、その結果は12月のブラジル・サンパウロ州選抜との試合を含め、7勝14敗6分け。

日本のユースチームがきびしい世界のタイトルマッチを勝ち抜けるか、少し心配な面もある。確かに現在の状態はあまりよくない。先のアジアユース大会でも、予選通過の壁を突破できなかった。本大会出場を決めている北朝鮮に0-2で敗れたが、日本チームの焦点はあくまで8月。ワールドユースに出られる資格をもった選手でアジアユース大会にのぞんだため、

他のチームの選手より若く、成績はよくなかったが、この時点で満足できるチームにまとめあげる必要はない。国内の強化合宿は12月19日に第8次を消化し、3月まではいろいろときびしい関門が選手たちを待ちうけている。3月下旬(遠征先は未定)と大会2カ月前の6月にはヨーロッパ遠征が計画され、最後の仕上げに入る。

ただ、現在のユースチームに欠けているのは「技術」だ。サンパウロ州選抜との試合でも、それをはっきり露呈した。個人技のしっかりした外国チームに対して、パスワークで迫るというのも作戦の一つだが、チーム育成の現段階では、あくまで個人の能力を高めることが最も重要だ。

あと8カ月——。成長の著しいユース(若者)のこと。みがくほどに光る素質の持ち主だけに、本大会では日本のファンの前に勇姿を見せてくれることだろう。日本チームが勝ち進み、スタンドが興奮のつぼと化するのをのぞみたい。